



A&S Co.,Ltd.

Sustainability *report* 2025

All for a Brilliant Tomorrow.

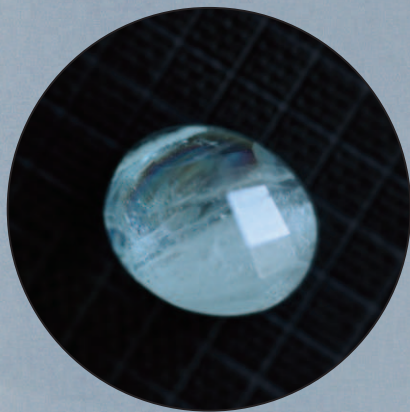
toward Next Journey

社会や価値観が大きく変化する中で、
私たちが何のために存在し、どこへ向かい、何を大切にしていくのか。

それらをあらためて見つめ直し、
次の未来を描いていくための私たちの想いを詰め込んだ
新たな Mission・Vision・Value を策定しました。



Mission



小さな存在(チカラ)で輝く 明日(ミライ)を

ひとつのジュエリーが、心に光を灯し、
人生の物語をともに歩んでいく。

働く一人ひとりが、仕事を通じて、
未来を形づくっていく。

私たちの小さなチカラが、誰かの心を輝かせ、
産業・技術の発展や継承に貢献しながら
社会を輝かせられることを、目指していきます。

Vision



ジュエリーで世界の心を繋ぐ

繊細な表現、調和の心、自然に対する感受性など、
日本独自の美意識は私たちに深く宿っています。

日本的な感性と世界の文化を結びあわせ、
私たちは時代を超えて愛される
「100年後のクラシック」を創り続けていきます。

私たちのジュエリーが、
心の物語を未来へ繋ぐ架け橋になることを願って。

Value



ALL FOR FANs

私たちにとって“FAN”とは、
お客様、共に働く仲間、お取引先様、産地、社会という、
ブランドを共に支える
すべての人たちと存在を意味します。

「誠実に、細やかに、独創的に」。
“FAN”に喜びと豊かさをお届けできるよう、
私たちは唯一無二の価値を生みだしていきます。

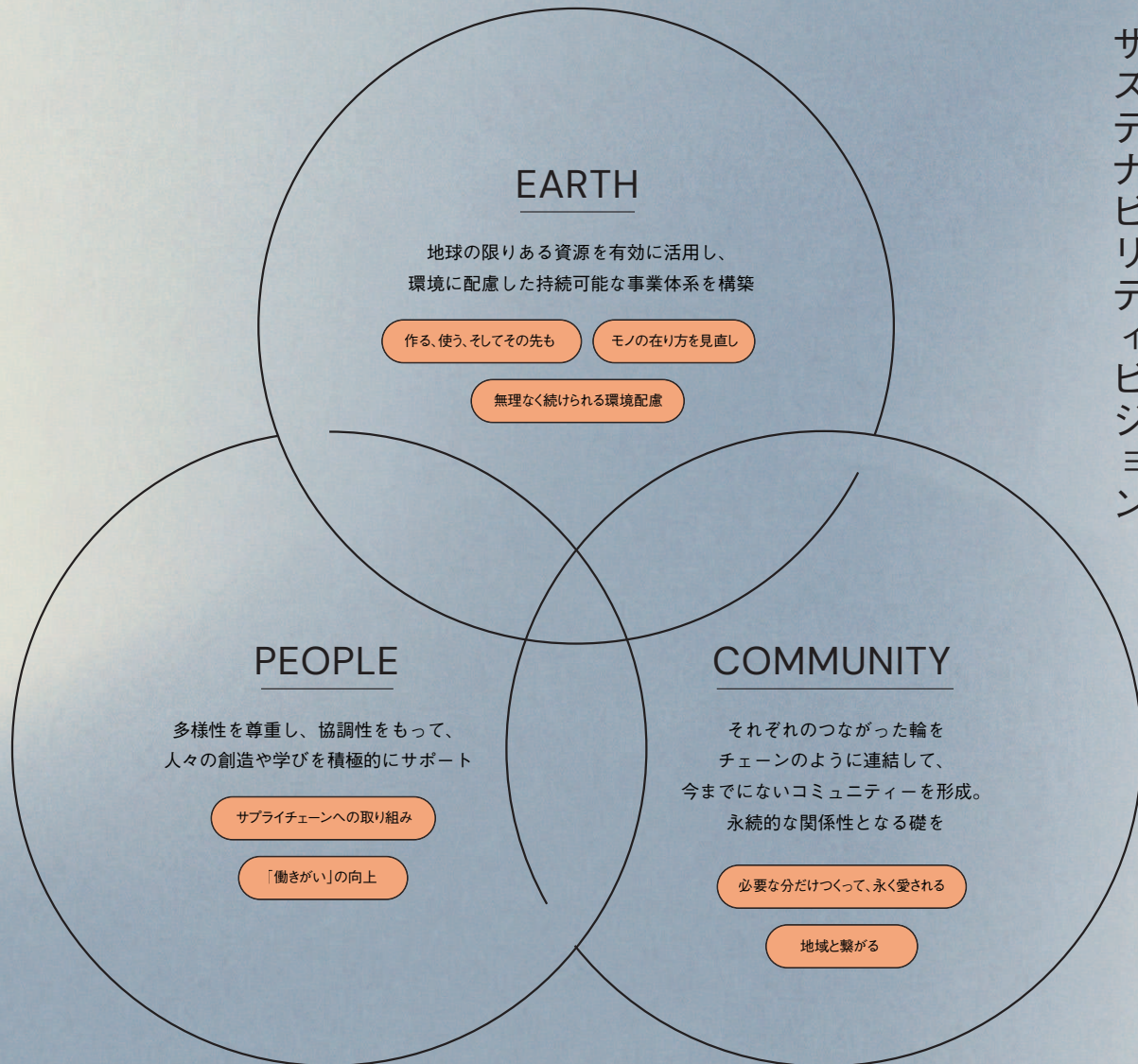
sustainability Vision

私たちエーアンドエスはただ美しい物を提供するだけでなく
社会にとってより良いことを考え行動することが
事業を継続する意味のひとつであり
そこに生み出される喜びが
ジュエリーの価値を高めてくれると信じています。

ブランドを愛してくださるお客様、
共に働くスタッフ、そして社会との関係において
より多くの喜びや感動を分かち合うための3つの軸

EARTH・PEOPLE・COMMUNITY

これらを美しい輪を描く
RINGのように循環させることで
持続可能な強いパートナーシップを
築いていくことを目指します。



Managing *for* Sustainability

ジュエリー業界はどのような課題を抱えているのか。

エーアンドエスの考える、持続可能な経営について、2025年の活動を振り返りながら紐解きます。



— what we do

まずは、企業価値を向上させること

「ようやくスタートラインに立ったところ」というのが、エーアンドエスの現在地。環境汚染、児童労働、原材料価格の高騰。ジュエリー産業が抱える課題は多岐にわたりますが、私たちが最も歯がゆく感じているのは改善に対するスピード感です。

「課題を認識できていても、業界全体でスピード感を持って具体的な解決には動けない。そこには企業や組織レベル以上の問題もあるのかもしれない」

なかでも切実なのは、職人技術継承の問題です。国内生産の比率が高いエーアンドエスは、産地や職人を無くして、理想のデザインやものづくりは実現できません。

「素材は何らかの形で手に入るとしても、フルオペレーションの機械では再現できない技術がある。それが僕たちの強みであると同時に、失えば取り返しのつかない弱みでもあります」

そうした現状を前に辿り着いたのが、「企業価値を上げる」ということ。まずジュエリーに関わる各企業がそれぞれ盤石な経営基盤を持ち、企業価値を高める。それが、結果的に業界全体の価値を底上げすることに、そして企業に人材

エーアンドエス 代表取締役 稲瀬 修

2006年にサザビリー・リーグ入社。アガット営業担当、新規事業などを経験し、2021年、カンパニー・プレジデントへ。分社化にともない、2025年から代表取締役社長に就任。「現場第一主義」を掲げ、海外進出にも積極的に取り組む。



を集めることにつながると考えます。

「企業価値を上げるとは、単に売上規模を拡大することではありません。リスクヘッジできる経営基盤を持ち、コンプライアンスにも対応すること。10年後、20年後、100年後も残っていく企業を目指すためには、それが最も大切な基準です」

— for the people who make it 今いる人が、もっと長く、いきいきと

健康経営優良法人、えるぼし認定の取得、国連グローバル・コンパクトへの参加は、その第一歩として選んだものでした。外部からの評価を取り入れるのは、私たちにとって初の試みとなります。こうした認証取得を通じて、企業活動やそのフィードバックを改めて確認するとともに、これから取り組むべき課題を把握する。そうすることで、自分たちの現在地が見え、会社の成長スピードを加速させることができると考えています。

2026年3月に認定された、「健康経営優良法人2026(大規模法人部門)」は、心身の健康保持・増進に向けた取り組みや、安心して働ける職場づくりを続けてきた姿勢が評価される制度。社員一人ひとりの健康と働きがい何より大切にする、という企業としての姿勢を改めて示すために必要な認証でもありました。また、従業員の9割を女性が占める企業として、5月には女性活躍推進の取り組みが評価される「えるぼし認定」の2段階目(2つ星)を取得しています。

「現場を支えるジュエリーアドバイザーの存在は、事業成長に直結します。人材確保が難しくなっているジュエリー業界にとって、今働いている人たちがより長く、いきいきと働ける環境をつくることは、必要不可欠なこと。また、採用においては、掲げた認証が求職者側の判断材料のひとつにもなると考えます。安全・安心して長く、いきいきと働ける環境があって初めて、人は深く愛情を持って働くことができる。まずは働く環境の整備からしっかりと取り組んでいきたいですね」

— from declaration to responsibility 宣言は、ゴールではなく出発点

ジュエリーづくりは、原材料の調達を通じて、環境破壊や労働問題といったサプライチェーン上のリスクと常に隣り合わせです。私たちの意志で素材を選び、作り手を選び、デザインを世に送り出している以上、その責任を果たすことが欠かせません。

そこで、2026年2月、エーアンドエスは国連が提唱する「国連グローバル・コンパクト(UNGC)」に署名し、参加企業として登録

取得した認証



えるぼし認定

女性活躍推進法に基づき、女性が能力を発揮できる環境を整えた企業だと国が認定する制度。採用・継続就業・働き方・管理職比率・キャリア形成の5項目で評価が行われる。



健康経営優良法人

経済産業省が進める、優良な健康経営を実践している企業を「見える化」するための認証制度。企業の規模によって、大規模法人部門と中小規模法人部門の2つに分類される。

参加したイニシアチブ

WE SUPPORT



国連グローバル・コンパクト

国連と民間企業・団体が手を結び、健全なグローバル社会を築くための世界最大のイニシアチブ。署名企業は人権、労働、環境、腐敗防止の4分野10原則に賛同し、遵守する。

されました。人権・労働・環境・腐敗防止の4分野・10原則に賛同する、世界最大級のサステナビリティ・イニシアチブです。加盟の影響は、社内にとどまらず取引先にも波及しました。「最前線で共にものづくりをしているパートナー企業にとっても、インパクトは大きかったのではないのでしょうか。署名をきっかけに、未来に向けた取り組みを相談できるような関係性になりました。1社では難しいことでも、連携することで共に企業価値を上げられる。そんなプロジェクトを模索したいですね。一方で、認証の取得やイニシアチブへの加盟自体はゴールではありません。自分たちで議論していた基準だけでなく、中立な第三者からの基準や評価を受け入れる。それを繰り返すことで、着実に次のステップへと進めると考えています」

— new ideas, new challenges アイデアと挑戦が未来をつくる

健康経営優良法人、国連グローバル・コンパクトへの参加、えるばし認定——立て続けに重要な取り組みを進めてきたこの一年を、「まだスタートラインに線を引いたところ」だと私たちは振り返ります。

「まだ、何もできていないと思っています。社会貢献も売上を通じたもの以外ではできていません。もっともっと、新たな動きを増やし、ステークホルダーを、業界を巻き込んでいく必要があると思います。未来につながる普遍的な取り組みを実現するには、新たなアイデアや視点、時には異分野を切り拓く

など前例のないことも試していく必要があります。ルールや枠組みだけにとらわれず、挑戦を続けていきたいです」

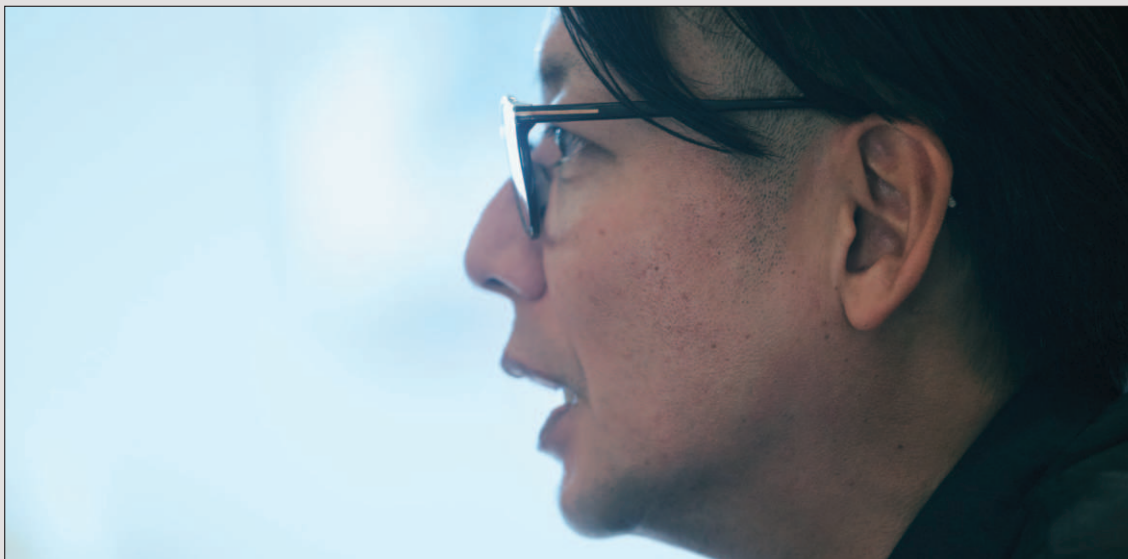
— one step at a time 小さな一歩の先に

一つひとつの取り組みは小さくても、いずれは業界全体の成長につながっていく。私たちはその一歩目を踏み出しました。「ジュエリーという市場では、どうしても競い合う関係になる企業やブランドもあります。ただ、抱えている課題は同じではなく。業界全体を巻き込んで、課題を乗り越えていきたいと

思います。さらにその先には業界の垣根を越えた、協業の可能性もある。そうした動きを先導する存在として、可能性を諦めず、新たな取り組みに挑み続けていきます」

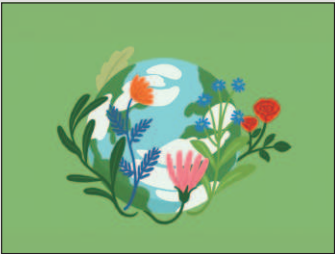
短期的な数値目標を追うだけではなく、対外的な宣言を積み重ねて取り組みを続けながら、未来をつくっていくこと。それが、今のエーアンドエスが選んだ歩み方です。

「まずは声を上げて行動してみること。そこから少しずつ、周囲からの反応や意見が得られます。言ってみなければ、行動してみなければ、現状は変わらない。何事もはじめは小さな一歩から。一人ひとりの意識と行動によって変化は始まっていくのだと、信じています」



Overview

EARTH・PEOPLE・COMMUNITY 3つの軸それぞれで掲げている数字と、
小さな行動からプロジェクト単位まで2025年度の活動内容を振り返ります。



EARTH

商品の廃棄率

2024

0.13%

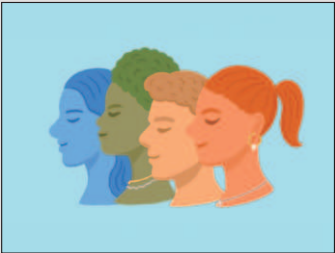
2025

0.04%

製造時に排出される
石膏の廃棄量削減

0.00%

0.00%



PEOPLE

女性管理職比率

2024

45.0%

2025

44.0%

育休取得率

100%

100%

寄付金額

¥380,785

¥245,978



COMMUNITY

学校への支援数

2024

2校

2025

3校

地域貢献活動数

5回

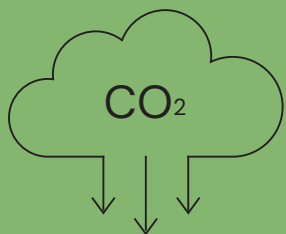
4回



EARTH *core activities*

—action

主な活動内容



CO2 排出量

234.7t

脱炭素経営を進めるために、Scope1およびScope2のCO2排出量算出をスタートいたしました。2024年度のCO2排出量は246.8t、2025年度:234.7t。



チャック袋回収

679kg

商品を入れるビニール袋を回収し、発送時に利用する緩衝材へとリサイクル。店舗、本社、お取引先様、リサイクル業者様と協業し、2025年4月～2026年3月までに679kgのビニール袋を循環いたしました。

Other Action



EC 配送用ボックスを 環境配慮素材に

お客様への配送用ボックスを、パーム油搾油後のヤシカサを原料としてアップサイクル。木材パルプの使用量を削減したFSC®認証取得の素材を採用しています。



環境配慮素材の利用

倉庫と店舗間の商品配送に使用するボックスを、パーム油搾油後のヤシカサを原料としたものに。木材パルプの使用量を削減した環境貢献型素材のボックスです。



comvey の利用

comvey社の繰り返し使えるエコな梱包材「シェアバッグ」をECサイトでの配送サービスにて取り入れ、環境に配慮した方法でお客様に商品をお届けしています。



繰り返し使える 配送用ボックス

店舗と倉庫、また本社間で配送する際に使用するボックスを、何度も繰り返し利用できるものに変更いたしました。



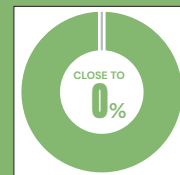
廃石膏をアートに

ジュエリーの製作工程で発生し、埋立地不足が課題の廃石膏を「WALLTECH」主催の学生立体アートコンテストに提供。アートに生まれ変わり、作品は大手町・甲府・沖縄で展示されました。



PASS THE BATON MARKETでのリユース品販売

「NEW RECYCLE」をコンセプトにした蚤の市、「PASS THE BATON MARKET」に出展。アガットで初めてとなる、リユース品の販売を行いました。



無駄のない商品づくり

ジュエリーの製作工程や店頭およびECのオペレーションなどを見直し、2024年度には0.13%だった商品廃棄率を、2025年度には0.04%に改善しました。



PEOPLE *core activities*

—action

主な活動内容



健康経営 優良法人の取得

社員の健康を経営的な視点で実践している優良企業として認められ、経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人2026(大規模法人部門)」に2026年3月に認定されました。



えるばし認定の取得

女性の活躍推進に関する取組が優れている企業として、女性活躍推進法に基づき厚生労働省が定め、厚生労働大臣が認定する「えるばし認定」2段階目(2つ星)を2026年5月に取得いたしました。

WE SUPPORT



国連グローバル・コンパクトへの署名

国際連合が提唱する「人権・労働・環境・腐敗防止」の4分野・10原則に賛同し、健全なグローバル社会の構築を目指す世界最大級のサステナビリティ・イニシアチブ、「国連グローバル・コンパクト」へ2026年2月に参加企業として登録されました。

ピンクリボン活動への参加 ※累計金額

2,988,532円

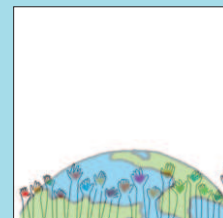
2025年10月1日～10月31日までの売上の一部182,375円、2009年度～2025年度の累計で2,988,532円を、日本対がん協会が乳がん征圧のために設けたほほえみ基金に寄付。

アニマルドネーション ※累計金額

717,282円

2013年2月～2026年3月の期間で対象商品の販売を通じて得られた売上の一部として、717,282円を、動物福祉活動を支援する団体アニマル・ドネーション様へ寄付させていただきました。

Other Action



サステナビリティ ビジョンの共有

新入社員にサステナビリティビジョン研修を実施し、環境意識の浸透を行いました。また、お取引先様へサステナビリティの実行内容の共有を行いました。



Sustainable Communication

社会課題への取り組みを「Sustainable Communication(サスコミ)」として、年4回の社内報で配信。サステナビリティの理解・興味促進を行いました。



各種研修の実施

新入社員向けの「スキル支援研修」、スキルアップを支援する「選択型研修」、時短社員のキャリア形成のための「マネジメント研修」、外部講師を招いた「おもてなし研修」など各種研修を実施しました。



COMMUNITY *core activities*

—action

主な活動内容

学校支援



次世代のクリエイター育成に貢献すべく、「東京デザイン専門学校」、「山脇美術専門学校」「ヒコ・みづのジュエリーカレッジ」の3つの学校にて、当社の取り組みや業界の実務に関する講義を行いました。

こども万博への参加



EXPO2025大阪・関西万博の会場内で開催された「こども万博」にて、クラフト体験イベントを実施しました。親子で楽しみながら、美しいヘアゴムやチャームを創作し、ものづくりを体験していただきました。

二子玉川 キッズアライズ



昨年に引き続き、二子玉川 キッズアライズに参加。親子体験型のポップアップイベントを開催いたしました。子供たちが天然石に触れる機会や、石にまつわる知識を楽しく学べる場としても展開いたしました。

Other Action



WORLD CLEANUP DAY 2025

国連が定める国際デーの1つで、世界190の国と地域2,470万人が参加したWorld Cleanup Dayに2回目の参加。地域の清掃活動に取り組みました。



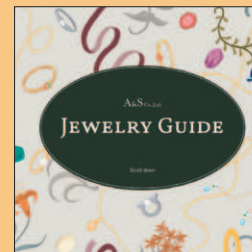
DIGITAL CLEANUP DAY 2025

2020年以降、175の国約120万人が参加したDigital Cleanup Dayに2回目の参加。637.1GBのデータ(CO2:159kg相当)の削除を行いました。



クリーン活動の実施

来店いただくお客様だけでなく、地域の方々にも心地よく過ごしていただくことを目的として、エアーランドエス本社とアガット青山本店周辺にて社員によるクリーン活動を継続的に行いました。



ジュエリーガイドの立ち上げ

購入いただいた商品を受着を持って長くお使いいただけるように、メンテナンス方法や天然石の個性や魅力、ものづくりの背景をまとめたジュエリーガイドを作成いたしました。



カンボジアへ制服の寄付

店舗で着用していた制服を回収し、教育支援団体「スクールエイドジャパン」を通じて、カンボジアの小学校の教師の方々へと寄付いたしました。

project Review

#01

CLEANUP
ACTIVITIES

#02

JEWELRY GUIDE

少しずつ、ひとつずつ、
積み重ねていく。
2025年度に行った
プロジェクトの
一部を抜粋して、
ケーススタディとして
お届けします。



cleanup Activities

意識改革のための第一歩。クリーン活動から地球とつながる

世界中で一斉にごみを拾う「World Cleanup Day」と、デジタル空間の不要なデータを整理する「Digital Cleanup Day」。

どちらも身近な行動を通して、環境問題を自分ごととして捉えるための国際的な取り組みです。

エーアンドエスでは、2024年より両活動に参加しています。その活動背景とその先にある想いを伺いました。

Guest Speaker



NPO 法人
WORLD CLEANUP
DAY JAPAN
浅井 孝夫



株式会社エーアンドエス
管理部 広報課
明 可菜子

— what cleanup really means

クリーン活動から、始まる行動

浅井：「World Cleanup Dayは、2018年にスタートした、世界中の人が同じ時期にごみ拾いを行う国際的な環境アクションです。2023年には国連総会で、毎年9月20日を「World Cleanup Day」とする国際デーに登録されました。ゴミ拾いそのものも大切ですが、それ以上に、一人ひとりが地球規模の課題に関わっていると実感できることに意味があります。一方、Digital Cleanup Dayは、外出の難しかったコロナ禍に生まれた取り組みです。普段意識することは少ないかもしれませんが、デジタルの世界にも、使われていないメールや不要なデータなど、多くのゴミが存在しています。それらを削除することで、無駄な消費電力を減らし、CO₂排出量削減にも貢献することができます」

明：「エーアンドエスではサステナビリティ課の発足と同時に、会

—project review #01

クリーン活動



社としてできることを探す中でWorld Cleanup Dayの活動を見つけたのが参加に至るきっかけでした。ゴミ拾いという行動自体はとてもシンプルですし、誰でも参加しやすい。社員が環境について考える最初の一步になるのではないかと考えました」

浅井：「企業にとっては『環境問題に向き合う会社である』という姿勢を社員全体で共有できます。同じ目的に向かって行動することで社内の一体感も生まれやすし、地域の方や、普段接点のない社員同士のコミュニケーションが生まれることもあります。エーアンドエスは天然資源を扱うジュエリー企業だからこそ、この活動との親和性が非常に高いと感じます」

— what picking up trash connects 拾いながら、つながっていく

明：「実施に向けて、まずは浅井さんに社内セミナーをお願いし、日本の現状や世界で起きていることを、専門家の言葉で伝えていただく場を用意しました。その後、社内報でポイ捨て問題を取り上げた記事と絡めて、参加表明を発信しました。Digital Cleanup Dayでは、店舗スタッフも参加できるよう、削除してよいデータや手順をまとめたマニュアルも作成しました。『まず理解し、その上で行動する』ことを大切にしたいかったです」

浅井：「企業によってはそもそも担当部署がなかったり、興味はあるけれど『どう始めればいいのかわからない』と相談をい

ただくことも多いのですが、エーアンドエスさんは、サステナビリティ課の皆さんが中心となって会社全体をリードされていることが、外から見てよく伝わってきました」

明：「World Cleanup Day当日は、千駄ヶ谷のオフィスと青山本店の周辺2拠点で実施しました。参加した社員は63名、集まったゴミは45リットルのゴミ袋7袋分になりました。ゴミの量が多かったのは人通りの多い青山店の周辺。オフィス付近は住宅街で治安もいい場所ではありますが、タバコの吸い殻のような細々したゴミが目立ちました」

浅井：「結構な量ですよ。都心部でポイ捨てする人が少ないような場所だと思うので、驚きましたし、改めて、街には見えにくいごみが残っていることを実感しました」

明：「青山店の周辺は、インバウンドのお客様も多いエリアなので、ゴミ拾いを通じて、お店に気持ちよくご来店いただき、『日本はきれいな国だ』という印象を持っていただきたいという思いもありました。オフィス周辺では、地域の方から直接感謝の言葉をいただいた社員もいて、嬉しかったと話していました」

浅井：「会社が事務所を構えていても、その地域の方と直接お話しできる機会は、意外と多くありません。ゴミ拾いは地味な活動に見えて、地域とのつながりをつくる場でもありますし、この企業は本当に地域のために動いてくれているんだ、という印象を持っていただける機会になると思います」

—project review #01

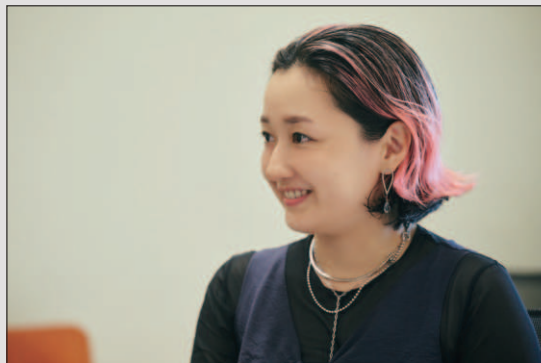
クリーン活動



明：「社員同士で自然と会話が生まれていたことも印象的でした。『この辺りは吸い殻が多いね』『イベントがあると、ごみも増えるんだね』といった何気ない会話が、あちこちで聞こえてきました。普段はあまり言葉を交わさない社員同士も打ち解けていく。そんな場面を見られたのは、嬉しい発見でした」

— making the invisible visible 見えないゴミを、見えるかたちに

明：「2025年のDigital Cleanup Dayでは合計637.1GBの不要データを削除しました。CO₂排出量に換算すると約160kg削減となり、ガソリン車で静岡から福岡まで走行できる距離に相当します。2024年は132.56GB、東京から静岡まで相当の削除で、削減量を伸ばすことができました」



浅井：「CO₂削減量を、身近な移動距離に置き換えて社内共有されていたことが、とても印象的でした。活動の成果を自分ごととして理解できる工夫は、多くの企業にとっても参考になると思います」

明：「ペットボトルの本数などで例える表現もあったのですが、正直ピンとこなくて。いろいろな表現を検討した結果、移動距離に辿り着きました。社内報には地図とともに、進んだ距離を成果として見せているのですが、いずれ世界一周できたら面白いですよ」

浅井：「デジタルの世界は、環境に負荷をかけているという感覚を持ちにくいものです。とりあえず残したデータが、整理されないまま重複して保管されているのは、クラウドを圧迫する原因にもなり会社にとって決定的な状態ではありません」

ん。Digital Cleanup Dayをきっかけに、社内のデジタル資産を棚卸しすることは、電力消費を抑えて環境負荷を和らげるだけでなく、業務の効率化にもつながるはず」

— small steps, and what's next 積み重ねの先にあるもの

明：「参加してみて一番良かったのは、クリーン活動をきっかけにした社員同士の交流が生まれたことです。ただ、意識の変化そのものは、正直まだ実感できていません。例えば、社内で取り組んでいるビニール袋の回収活動でも、分別をお願いしているのですが、まだ十分ではありません。そうした意識も一緒に高まっていけばと思っていたのですが…」

浅井：「年に一、二度の活動で、意識がぱっと変わるわけではありません。私たちも企業の皆さんには、『一回やって終わり』ではなく、定期的に続けていただくことに意味があるとお伝えしています。エーアンドエスさんは、活動だけでなく、その背景や目的を丁寧に社内へ伝えながら進められていました。だからこそ、一過性のイベントではなく、継続的な取り組みとして育っていく可能性を感じています。今後も活動を続けることで、社員の皆さんの意識が少しずつ変わり、その積み重ねが企業文化になっていくと思っています」

明：「今後は店舗も巻き込んだ活動の方法を見つけたいですね。ただ、店舗のスタッフだけに任せしまうと、熱中症や事故など、

何かあったときに対応しきれない懸念もあるので、安全に進められる仕組みを整える必要があります。それが安定してきたら、店舗を構える他のグループ会社にも活動を広げていきたいですね」
浅井：「World Cleanup Dayは、ただゴミを拾って終わり、環境について勉強して終わりにするのではなく、一人ひとりが環境を自分ごととして捉えるきっかけにしていきたいと思っています。環境問題と言うと大きすぎるように感じるかもしれませんが、自分が1つ実践したことが、世界中の人と一緒にすることで、地球全体に効果を及ぼす。それを感じていただけたらと思っています。皆さんの取り組みが、お客様や地域の方々にも少しずつ伝わっていくことで、エーアンドエスが環境を大事にするブランドなんだと認知も広がっていくはずです。それが、働く皆さんの自負心にもつながっていくのではないのでしょうか」

明：「確かにサステナビリティという言葉は広く知られるようになりましたが、実際、自分の仕事や会社とどう関係するのか、十分に浸透していないのが正直なところ。今回の取り組みを通じて、小さな行動もサステナビリティにつながっているのだと知ってもらえたら嬉しいですね。大きなことより、小さなことをコツコツと継続的に積み重ねていくことが大切だと考えています。そして何より、やらされている感覚をなくして、みんなで楽しく交流しながら取り組めること。そこを一番大事にしたいと考えています」

jewelry Guide

—project review #02

ジュエリーガイド

大切なジュエリーを、長く愛でてほしいから。エーアンドエスが届けるジュエリーガイド

2025年8月に公開された、Webサイト「ジュエリーガイド」。

個性あふれる天然石の魅力を伝えるギャラリーから、
金性別のジュエリーのお手入れ方法まで、幅広いコンテンツが掲載されています。
その立ち上げの経緯と“愛でる”ことで生まれる好循環について、担当部署の想いをご紹介します。

— what started the project

ジュエリーとの向き合い方を見つめ直す

ジュエリーのお手入れや天然石の魅力を発信している Web サイト「ジュエリーガイド」。このプロジェクトのきっかけとなったのは、既存の取扱説明書（デメリットタグ）を見直していた時のことでした。

「もともとは紙の取扱説明書を、購入されたお客様にお渡ししていました。それを電子化して Web サイトにも掲載していたのですが、実際にはお客様にほとんど見られておらず、内容の見直しも長らくできていない状態でした。そこで取扱説明のような内容に加えて、クリーニングなどのお手入れの仕方を合わせて掲載する方向で Web サイトの更新を検討していました」

ちょうどその頃、インクルージョンやクラックについて、お客様からの問い合わせが寄せられることも増えていました。



「エーアンドエスは、これまで天然石のジュエリーを扱っていませんが、自社サイトの中で石の種類や個性、魅力などを説明できていなかったんです。そこで、せっかくなら、新たな Web サイトで天然石の魅力やものづくりの背景まで伝えられるようなものを作ろうと考えました。買って終わりにしない。むしろそこから始まる長い時間にこそ、私たちの伝えるべきことがある。そう思ったんです」

— care becomes affection ケアを通じて、愛着を育てる

Web サイトを開いた瞬間、広がるのは、まるでヨーロッパの童話の世界。そこには、天然石の個性を紹介する「Jewelry Box」、職人やお客様の物語を綴る「Jewelry Story」、そしてお手入れの方法を伝える「愛でるケア」などのコンテンツが並び、ジュエリーを手にした日から、長く連れ添っていくための時間が、まるで一冊の物語のように綴られています。なかでも力を入れたのが、「愛でるケア」です。お客様が自らの手を動かしてお手入れをすること自体が、ジュエリーへの愛着を育てていくと考えました。ただ、ジュエリー初心者にとっては、ジュエリーのケアが想像以上にハードルが高いということもわかっていました。

「貴金属は、衣服や靴に比べて馴染みがないので、誤って傷つけてしまうのが怖いですね。そこで、磨くときの力の入れ方や、クロスの滑らせ方など、文章だけでは伝わりづらい



部分には動画を取り入れながら、いかにわかりやすく伝えるかを意識しました」

基本的なケア方法だけでなく、ダイヤモンドと天然石、ピアスとネックレス、マット加工や糊止めが施されたジュエリーなど、アイテムや加工によって異なるケアについても掲載。「もし知らないまま、素材感を生かした加工のものを力強く

磨いてしまえば、風合いを損なってしまうこともあります。ジュエリーの魅力を長く感じていただくためにも、一つひとつ扱いの違いを、丁寧に分けて伝えています」

— a gallery of natural beauty 天然石の魅力を伝えるギャラリー



社内でも好評だったのが、美しい写真とともに天然石の特徴を紹介するギャラリーページです。

「実際に石を並べて、それぞれの違いをゆっくり比較できる機会は、これまでほとんどありませんでした。私たちにとっても、貴重な資料になっています」

ギャラリーに並ぶ石は、“市場的に価値がある美しさ”を持つものばかりではありません。

「見ていただければおわかりになると思いますが、全部が全部、クリアできれいな石ではありません。あえてクラックやインクルージョン、個性のある石も並べることで、一つひとつ異なる石の表情を伝えられたんです」

天然石は、自然の中で時間をかけて育まれるからこそ、同じもの

が2つと存在しません。石の内側に走るクラックも、含まれる内包物も、すべてがその石だけの個性です。しかし、それをデメリットとして受け取られてしまうことも、これまで多くありました。

「とりわけ EC サイトから購入されたお客様からは、『このひびは何か』といった質問が多く寄せられていました。店頭であれば、スタッフとの会話の中で知識を得ていただくこともできます。ただ、EC サイトでは当然伝え切れませんし、スタッフによって伝え方にも差があります。同じ情報を、誰にとっても同じように届けられる場所が必要だと感じていたんです」
つ扱いの違いを、丁寧に分けて伝えています」

— a story in progress

ジュエリーガイドのこれから

実際、ジュエリーガイドの公開後は、店舗での接客にも変化がありました。特に、ギフトとして購入する男性のお客様など、ジュエリーの扱いに慣れないお客様への説明がしやすくなったといいます。

「ジュエリーガイドをお見せしながら、石の個性や魅力、また購入後のケアについて、これまで以上に詳しくご案内をできるようにになりました」

ジュエリーガイドは、今も少しずつ育てられています。

「今後、新作で使われる石とリンクさせながら、天然石のギャラリーページを充実していく予定です。また、多言語対応も

—project review #02

ジュエリーガイド

したので、インバウンドのお客様へのご案内や、海外店舗でも役立ててもらえたらと思っています。アガットは、ギフトよりもご自身で選んで買われる方が多いブランドです。ジュエリーにこだわりを持つお客様同士だからこそ、共感し合えることも多いはず。将来的には、ジュエリーが好きな人誰もが集まれるコミュニティのような役割を果たせたら理想かもしれません」

— the view beyond care

ジュエリーを愛でること、その先にあるもの

「限られた天然資源から生まれるジュエリーを、大事に長く使っていただけたら、それが結果として、地球環境を大切にすることにつながると思うんです」

例えば、祖母や母からジュエリーを受け継ぎ、大切に使い続けて、次の世代へと繋いでいくこと。それもまた、サステナブルの1つの形だといえるでしょう。

「ジュエリーガイドを参考に、自分の手で磨いて、ケアをして、もっとジュエリーを愛でていただきたい。そして、長く使っただけだったら嬉しいです」

ジュエリーを身につける喜びだけでなく、それを慈しみ、育てていく喜びまで、1人でも多くの人に知ってもらうこと。そしてそれが、地球環境を守るための一歩につながるということ。ジュエリーを愛でるということは、日々の暮らしだけでなく、その先にある世界を、少しずつ豊かにしていくのかもしれない。

インクルージョンとは

INCLUSION

天然石は、長い時間をかけて液体や気体、他の鉱物なども自然に取り込みながら成長していきます。その中に含まれる小さな鉱物や液体、気体のようなものは「インクルージョン（内包物）」と呼ばれています。

インクルージョンは、石の個性であり、同じものがあつたつという、天然石ならではの神秘を感じさせてくれます。

クラックとは

CRACK

石が成長し結晶化する過程などにおいて、地盤変動などにより圧力がかかると壊れる亀裂や亀裂などの石の欠陥のことです。

いわば、石に刻まれた記憶のようなもの

その亀裂が完全な隙間、あるいは空気を満たし、石に一部は透明な液体や気体が入り込んでいます。また、一部は空気を満たし、石の一部は透明な液体や気体が入り込んでいます。

PHILOSOPHY JEWELRY BOX JEWELRY STORY HOW TO USE JEWELRY CARE AFTER SERVICE @JP



How to use

すべてのジュエリーのために

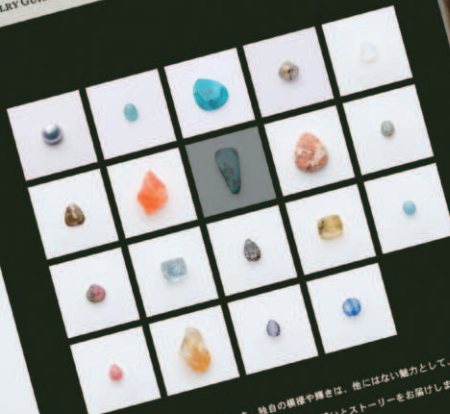


PHILOSOPHY JEWELRY BOX JEWELRY STORY HOW TO USE JEWELRY CARE AFTER SERVICE @JP

JEWELRY GALLERY

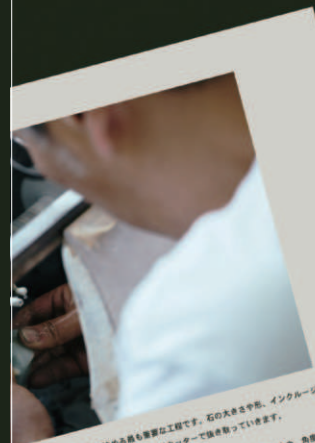


12 / 19



その一つひとつに宿る個性と美しさ、独自の模様や輝きは、他にはない魅力として、私たちの心に響りかけてきます。選ばれた石たちの宿す、想いとストーリーをお届けします。

Q More



「知り」、世に上りの「新」を決める最も重要な工程です。石の大きさや形、インクルージョンや亀裂の有無、ダイヤモンドカットで輝き磨き上げていきます。

全く別物になるんです。ひとつの石でもさまざまな色や模様を表現できる。その中で、自分だけの「新」を決める最も重要な工程です。石の大きさや形、インクルージョンや亀裂の有無、ダイヤモンドカットで輝き磨き上げていきます。

PHILOSOPHY JEWELRY BOX JEWELRY STORY HOW TO USE JEWELRY CARE AFTER SERVICE @JP

Story
JEWELRY

天然石が奏でるストーリー
自分だけの"ひとつ"との出会い。
ジュエリーに宿る思い出と物語

CASE 1

家の中でジュエリーを
身に着ける



身に着けたままのジュエリーを気づかないうちに何処かにぶつけていたり、ジュエリーを身に付けたまま散歩や運動などをしてしまったりすると、自然に気づかずに壊れてしまう可能性があります。

また、化粧品や香水、洗剤等の付着も金属部分や石部分にダメージを与える原因になります。

洗剤の洗浄に際しても、イヤリングやピアスなどを引っ掛けてしまったり、ピアスを引っ掛けてしまったり、リングの指が引っ掛けてしまったり、ジュエリーをいためる原因となる事象が多々あります。

PHILOSOPHY

01
私たちの想い

VIEW MORE

A&S
JEWELRY GUIDE

to the Future

「普遍」とは、今までと変わらずに

あり続けることではありません。

時代に合わせて変化し、挑戦を重ねた先にこそ、

「100年後のクラシック」が生まれます。

私たちは今日も、新しい一歩を踏み出して、

未来へと歩みを続けていきます。

Osamu Inoue

